

凡例 LEGEND

砂丘砂 Dune sand	砂・礫・泥 Sand, gravel and mud	砂・粘土 Sand and clay	砂岩・砂質シルト岩 Sandstone and sandy siltstone	シルト岩・砂岩互層 Alternation of siltstone and sandstone	シルト岩・砂岩互層 Alternation of siltstone and sandstone	砂岩・砂質シルト岩 Sandstone and sandy siltstone	砂岩・砂質シルト岩 Sandstone and sandy siltstone	硬質頁岩 Hard shale	粘板岩・粘岩 Slate and chert	石灰岩 Limestone	浮石質凝灰岩 Pumice tuff	角礫凝灰岩 Lapilli tuff	集塊岩 Agglomerate	安山岩 Andesite
Aluvial lowland sediments	Terrace sediments	Talus deposit	火山灰-砂・礫 Ash-sand and gravel	段丘層 Terrace formation	田名部層 Tanabe formation	浜田層 Hamada formation	砂子又層 Sungonata formation	張ヶ森層 Sarugamori formation	鷹架層 Tobako formation	蕨野沢層 Gumanosawa formation	片岡山層 Katsuzaki-yama formation	蕨野沢層 Gumanosawa formation	招安山岩類 Tomari andesite	
Quaternary	Aluvium	沖積世	第四紀	沖積世	沖積世	沖積世	沖積世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世
				第四紀	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世	中新世

垂直的分類 (境界は赤の実線)

α	ごく浅い (約3m以浅)	岩体のかさ	軟 (軸圧強度100kg/cm ² 未満)	1	軟 (弾性変形速度1.5km/sec未満)
β	中程度	風化段の深さ	中 (軸圧強度100-400kg/cm ²)	2	中 (弾性変形速度1.5-3.0km/sec)
γ	ごく深い (約10m以深)		硬 (軸圧強度400kg/cm ²)	3	硬 (弾性変形速度3.0km/sec以上)

10 岩盤までの未固結一半固結層の厚さ (m)
100 岩盤までの未固結一半固結層の厚さ (m)

丘陵地・石垣

AT	火山灰-第三系	M	泥層を主とする地塊
AM	火山灰-第四系 (粘土)	S	砂層を主とする地塊
AS	火山灰-第四系 (砂)	G	礫層を主とする地塊
AG	火山灰-第四系 (礫)		地下40mまで
TB	岩盤一帯		

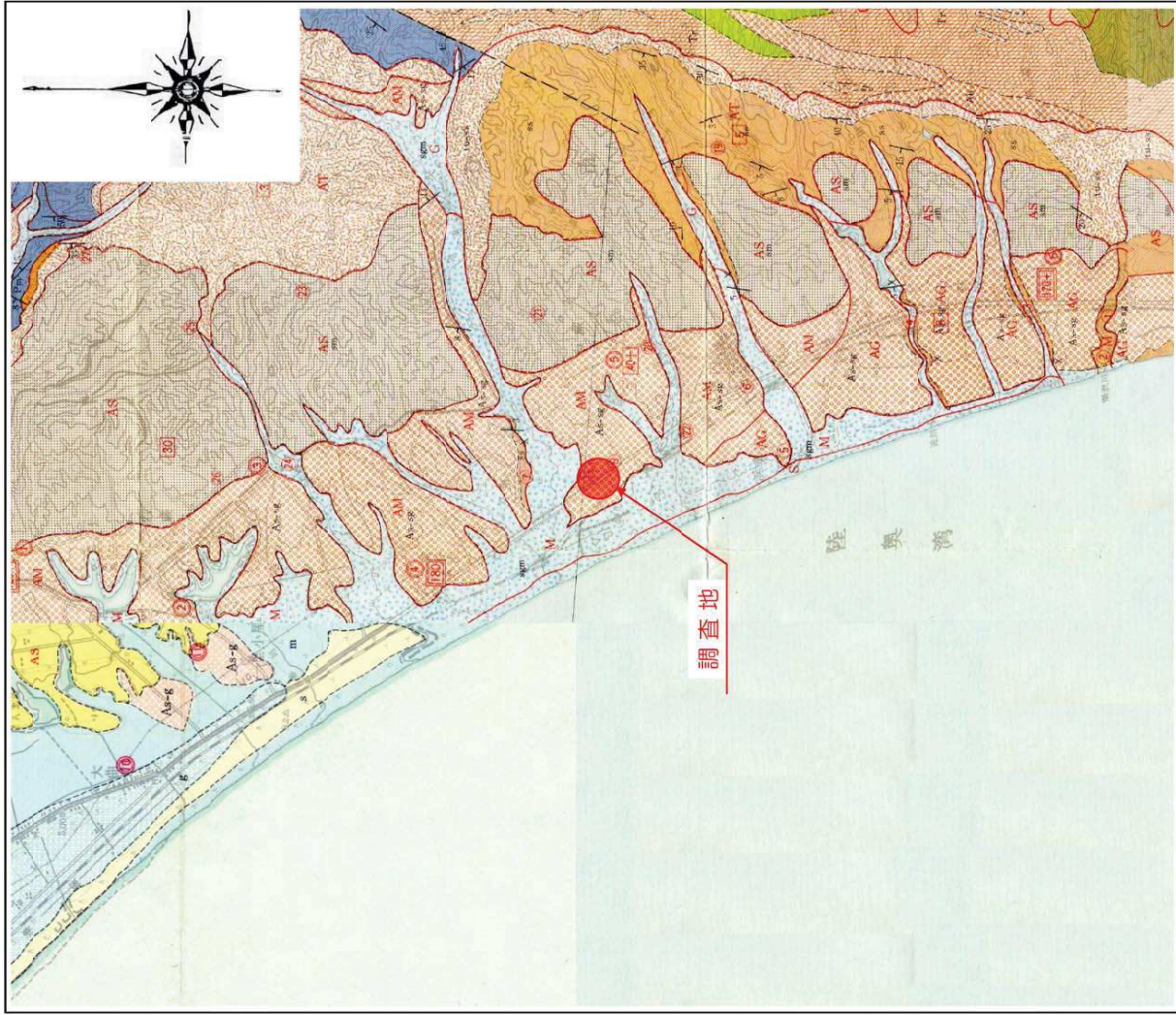


図3.3 地質分類図 S=1:50000 「土地分類基本調査：近川」

4.調査結果

調査ボーリングは、図4.1の調査位置平面図に示す4箇所を実施した。またB2-1とB2-2は、塩ビ管φ50mmを挿入し水位観測孔を設置した。

なお詳細は、巻末のボーリング柱状図のとおりである。

各孔の標高と実施数量を下表に示す。

表4.1 各孔の標高と実施数量

孔 番	標 高 H(m)	ボーリング 深度L(m)	標準貫入 試験(回)	観測孔 VP設置(m)
B1-1	15.49	67.0	67	0
B1-2	13.87	67.0	67	0
B2-1	14.66	10.0	10	11
B2-2	14.07	10.0	10	11
合 計		154.0	154	22

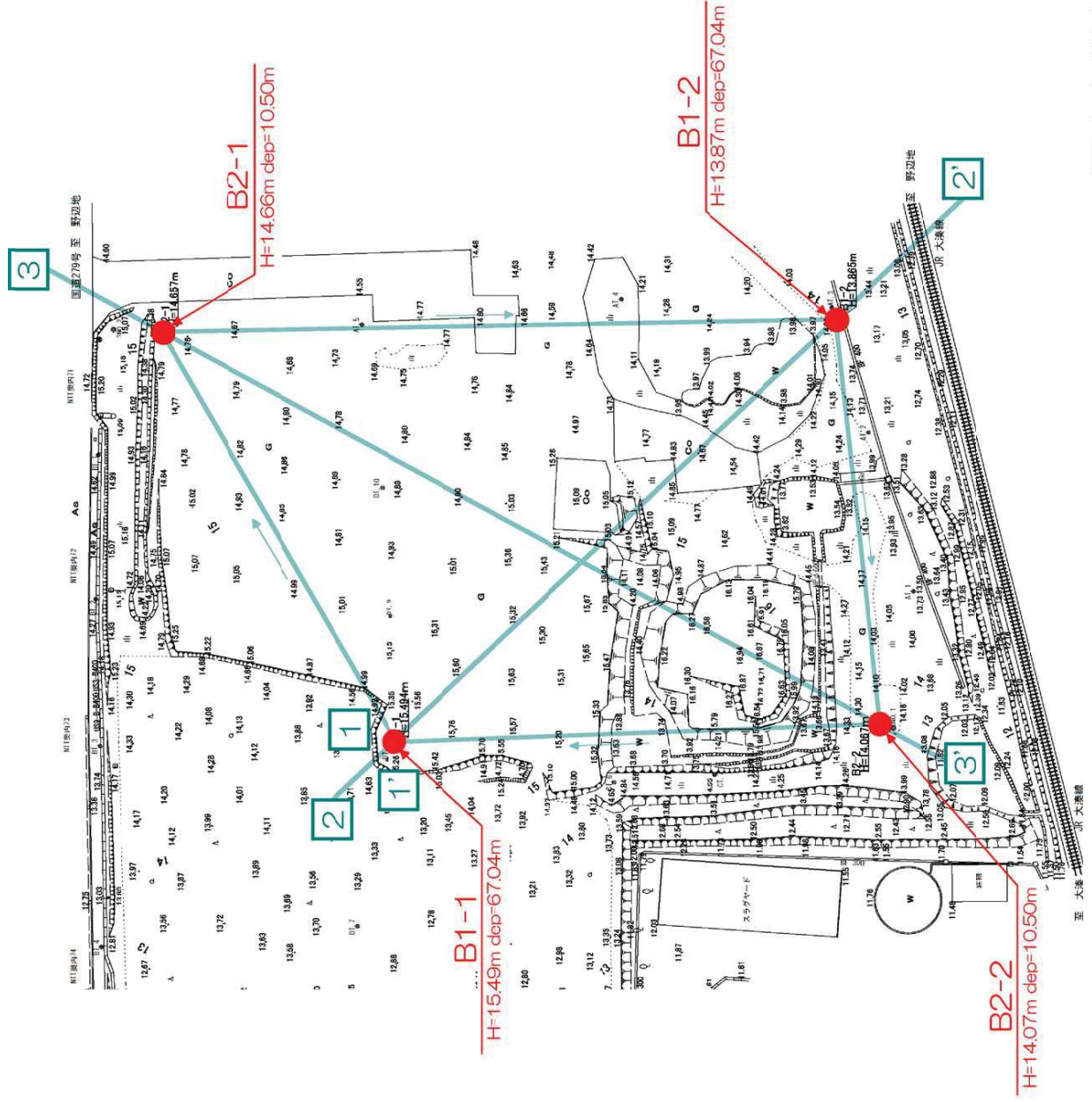


図4.1 調査位置平面図 S=1:500

次頁より，地盤構成と各地層の層相及び N 値特性について簡単に記述する。なお，土の相対密度と土の相対稠度は，表 4.2～表 4.3 に従った。

表 4.2 土の相対密度 (Terzaghi and Peck)

N 値	相対密度	現場判別法
0～4	非常に緩い (very loose)	鉄筋が容易に手で貫入
4～10	緩い (loose)	ショベル(スコップ)で掘削可能
10～30	中位の (medium)	鉄筋を 5 ポンドハンマで打込み容易
30～50	密な (dense)	同上，30 cm 程度貫入
50～	非常に密な (very dense)	同上，5～6 cm 貫入，掘削につるはしが必要，打込み時に金属音

注) 鉄筋は $\phi 13\text{mm}$

「地盤工学会：地盤調査の方法と解説 P305」より

表 4.3 土の相対稠度 (Terzaghi and Peck)

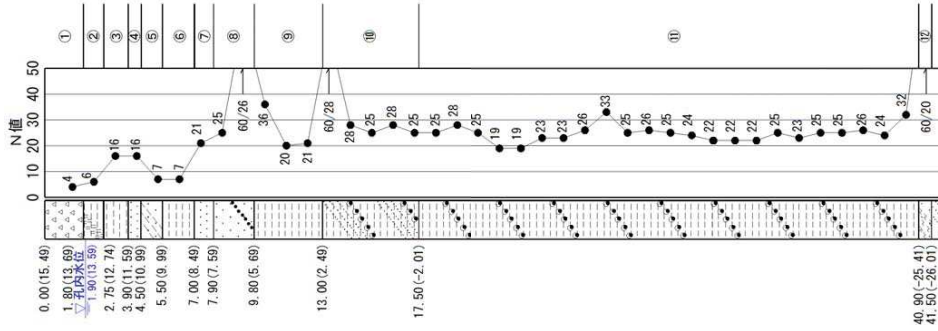
N 値	q_u (kN/m^2)	コンシステンシー
0～2	0.0～24.5	非常に軟らかい
2～4	24.5～49.1	軟らかい
4～8	49.1～98.1	中位の
8～15	98.1～196.2	硬い
15～30	196.2～392.4	非常に硬い
30～	392.4～	固結した

「地盤工学会：地盤調査の方法と解説 P308」より

4.1 調査ボーリング結果

以下に調査ボーリング結果を示す。

①-1 B-1-1 (標高H=15.49m 深度dep=67.04m



() は標高を示す。

表 4.4 地盤構成 (1)

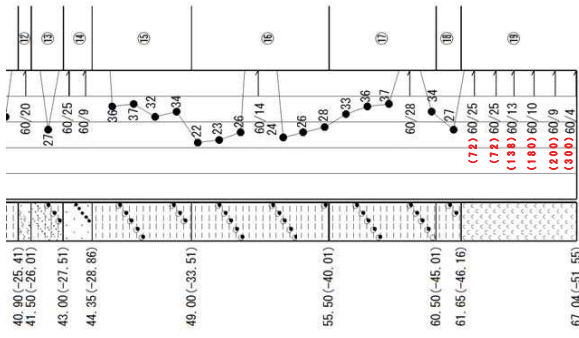
番号	主な土質・地質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
①	軽石	1.80	1.80	4	炭灰	緩い		全体にφ2~40mmの軽石と風化軽石で構成される。全体にφ2mm以下の石英を混入する。0.00~0.05m間はφ40mm以下の砕石である。
②	有機質シルト	2.75	0.95	6	黒灰		中位の	全体に未分解の有機物を多く混入する。1.90~2.00m間に細砂を混入する。
③	粘土	3.90	1.15	16	淡褐		非常に硬い	全体にほぼ均質である。
④	細砂	4.50	0.60	16	淡褐	中位の		全体に粒子はほぼ均一である。全体にφ2mm以下の石英を混入する。
⑤	シルト質砂	5.50	1.00	7	淡褐	緩い		全体に砂は細砂を主体とする。下方に鈍いシルト分を多く混入する。
⑥	シルト	7.00	1.50	7	暗青灰		中位の	所々に細砂をシーム状に混入する。6.70~6.90m間に細砂を狭化する。
⑦	細砂	7.90	0.90	21	暗青灰	中位の		全体にφ2mm以下の石英を混入する。
⑧	礫混じり砂	9.80	1.90	25~60<	暗青灰	中位の ~ 非常に密な		全体に砂は細砂を主体とする。全体にφ2~10mmの垂角~垂円礫とφ2mm以下の石英を混入する。
⑨	シルト	13.00	3.20	20~36	暗緑灰		非常に硬い ~ 固結した	11.55~11.75m間に細砂をわずかに混入する。12.50~13.00m間に細砂を薄層状に狭化する。
⑩	貝殻混じり砂質シルト	17.50	4.50	25~60<	暗緑灰		非常に硬い ~ 固結した	全体に細砂を多く混入する。全体に貝殻片を混入する。16.50~16.85m間は砂分が少なくシルト状を呈する。
⑪	貝殻混じりシルト	40.90	23.40	19~33	暗緑灰 ~ 暗灰		非常に硬い ~ 固結した	全体に貝殻片を混入する。17.80~17.95m間・20.90~21.00m間・23.90~24.00m間・24.60~24.70m間・24.90~25.00m間・25.50~25.60m間・26.60~26.85m間・28.70~29.00m間・29.65~29.80m間に細砂を混入する。32.65~32.75m間に細砂を狭化する。40.50~40.90m間に火山灰を混入する。40.70m付近にφ2~5mmの軽石を混入する。
⑫	火山灰質砂	41.50	0.60	60<	炭灰	非常に密な		全体に砂は粗砂を主体とする。全体に火山灰を多く混入する。全体にφ2~5mmの石英と軽石を混入する。φ2~5mmの垂円礫をわずかに混入する。

①-2 B1-1 (標高H=15.49m 深度dep=67.04m)

表4.5 地盤構成(2)

番号	主な土質・地質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
⑬	貝殻混じり砂質シルト	43.00	1.50	27	暗緑灰		非常に硬い	全体に細砂を多く混入する。 全体に貝殻片を混入する。 42.50m以深にφ2~5mmの亜角礫をわずかに混入する。
⑭	礫混じり砂	44.35	1.35	60<	暗灰	非常に密な		全体に砂は粗砂を主体とする。 全体にφ2~10mmの角~亜角礫とφ2mm以下の石英を混入する。
⑮	貝殻混じり固結シルト	49.00	4.65	32~37	暗緑灰		固結した	全体に細砂を多く混入する。 全体に貝殻片を混入する。 48.75~48.80m間に細砂をシーΔ状に挟む。
⑯	貝殻混じりシルト	55.50	6.50	22~60<	暗緑灰		非常に硬い ~ 固結した	全体に貝殻片を混入する。 52.15~52.20m間に火山灰質砂を挟む。 52.80~52.95m間にφ2~5mmの亜角礫を混入する。 53.50~53.60m間に粗砂を挟む。
⑰	貝殻混じり固結シルト	60.50	5.00	23~60<	暗緑灰		固結した	全体に貝殻片を混入する。 56.00~57.00m間にφ2~10mmの亜角礫をわずかに混入する。 57.30~58.50m間に粗砂を互層状に挟む。 59.30~59.45m間に火山灰質砂を挟む。 59.45~59.75m間に粗砂を挟む。 60.00~60.50m間に粗砂をわずかに混入する。
⑱	貝殻混じりシルト	61.65	1.15	27	暗緑灰		非常に硬い	全体に貝殻片を混入する。 60.80m付近に粗砂を薄層状に挟む。
⑲	凝灰岩	67.04	5.39	60< (72~300)	淡褐灰	非常に密な		基質は細砂・φ2~5mmの角~亜角礫・石英・火山灰で構成される。 ハンマーで容易に割れる。 岩の分類は軟岩I, 岩級区分はD~OL級である。 62m:RQD=26%(max=14cm) 63m:RQD=10%(max=10cm) 64m:RQD=36%(max=26cm) 65m:RQD=45%(max=35cm) 66m:RQD=52%(max=22cm)

()内は換算N値を示す。



()は標高を示す。
()内は換算N値を示す。

②-1 B1-2 (標高H=13.87m 深度dep=67.04m)

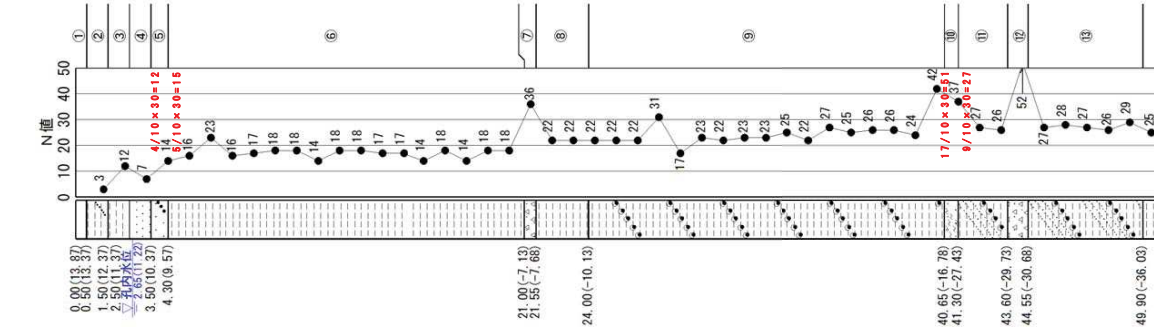


表4.6 地盤構成(1)

番号	主な土質・地質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
①	砕石	0.50	0.50	-	暗灰			φ40mm以下である。
②	砂混じりシルト	1.50	1.00	3	暗青灰		軟らかい	全体に細砂を混入する。 未分解の有機物をわずかに混入する。 0.50~0.80m間にφ40mm以下の砕石を混入する。
③	粘土	2.50	1.00	12	淡褐灰		硬い	全体にほぼ均質である。 2.30~2.50m間に細砂を混入である。
④	細砂	3.50	1.00	7	淡褐 ~ 淡青灰	緩い		全体に粒子はほぼ均一である。 全体にφ2mm以下の石英を混入する。 シルト分をわずかに混入する。
⑤	礫混じり砂	4.30	0.80	12	暗灰	中位の		全体に砂は粗砂を主体とする。 全体にφ2~10mmの亜角~亜円礫とφ2mm以下の石英を混入する。 3.60m付近にφ40mm程度の亜円礫を混入する。
⑥	シルト	21.00	16.70	14~23	暗緑灰		硬い ~ 非常に硬い	9.50~9.70m間:9.80~9.90m間:12.60~12.80m間 13.80m付近:14.50~14.70m間:15.50~15.70m間 16.60~16.70m間:17.60m付近:17.75~17.85m間 18.80~19.00m間:19.80~20.00m間:20.70~20.75m間に 細砂をわずかに混入する。
⑦	軽石質砂	21.55	0.55	36	暗灰	密な		全体に砂は粗砂を主体とする。 全体にφ2~10mmの軽石を多く混入する。 全体にφ2mm以下の石英を混入する。
⑧	シルト	24.00	2.45	22	暗緑灰		非常に硬い	22.60~22.75m間と23.60~23.70m間に細砂をわずかに混入する。
⑨	貝殻混じりシルト	40.65	16.65	17~42	暗緑灰		非常に硬い ~ 固結した	全体に貝殻片を混入する。 25.50~25.55m間:26.60~26.70m間:27.75~27.95m間 31.55~31.70m間:31.85m付近:32.65~32.75m間 32.95~33.00m間:34.70~34.90m間:35.70~35.85m間 36.70~37.00m間に細砂をわずかに混入する。 38.60~38.75m間に火山灰質砂を挟在する。
⑩	火山灰質砂	41.30	0.65	51	淡灰	非常に密な		全体に砂は粗砂を主体とする。 全体に火山灰を多く混入する。 全体にφ2~5mmの石英とφ2~10mmの軽石を混入する。
⑪	貝殻混じり砂質シルト	43.60	2.30	26~27	暗緑灰		非常に硬い	全体に細砂を多く混入する。 全体に貝殻片を混入する。 42.80~43.60m間にφ2~10mmの軽石をわずかに混入する。
⑫	軽石質砂	44.55	0.95	52	暗灰	非常に密な		全体に砂は粗砂を主体とする。 全体にφ2~20mmの軽石を多く混入する。 全体に貝殻片とφ2~5mmの石英およびφ2~10mmの亜角~亜円礫を混入する。
⑬	貝殻混じり砂質シルト	49.90	5.35	26~29	暗緑灰		非常に硬い	全体に細砂を混入する。 全体に貝殻片を混入する。 46.80~46.85m間に粗砂とφ2~10mmの軽石を混入する。

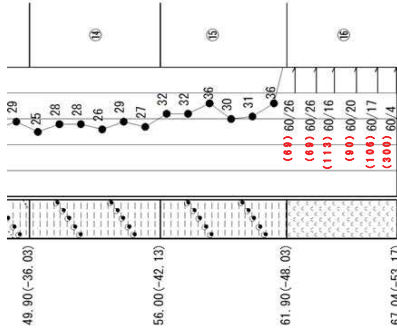
()は標高を示す。
赤字は層境界の計算N値を示す。

※赤字は層境界の計算N値を示す。

② -2 B1-2 (標高H=13.87m 深度dep=67.04m

表4.7 地盤構成(2)

番号	主な土質・地質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
⑭	貝殻混じりシルト	56.00	6.10	25~29	暗緑灰		非常に硬い	全体に貝殻片を混入する。 52.00~52.25m間に火山灰質砂を挟在する。 52.70~52.90m間・53.50~53.75m間・53.90~54.00m間 54.85~55.00m間・55.70~55.80m間に細砂をわずかに混入する。
⑮	貝殻混じり固結シルト	61.90	5.90	30~36	暗緑灰		固結した	全体に貝殻片を混入する。 57.50~57.70m間にφ2~5mmの軽石を混入する。 57.90~58.00m間に粗砂を挟在する。 58.60~59.00m間にφ2~5mmの軽石と粗砂を混入する。 59.70~59.90m間に火山灰を混入する。 59.95~60.00m間に粗砂を挟在する。 60.75~60.85m間に軽石混じり砂を挟在する。
⑯	凝灰岩	67.40	5.50	60< (69~300)	淡緑灰			基質は細砂・φ2~5mmの角~亜角礫・石英・火山灰で構成される。 ハンマーで容易に割れる。 岩の分類は軟岩I, 岩級区分はD~CL級である。 62m:RQD=51%(max=39cm) 63m:RQD=56%(max=24cm) 64m:RQD=43%(max=23cm) 65m:RQD=54%(max=23cm) 66m:RQD=32%(max=32cm)



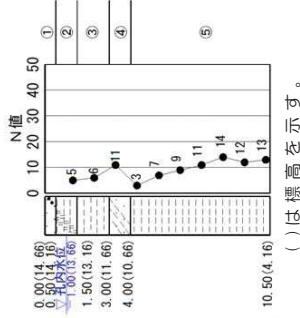
() は標高を示す。
() 内は換算N値を示す。

() 内は換算N値を示す。

③ B2-1 (標高H=14.66m 深度dep=10.50m

表 4.8 地盤構成

番号	主な土質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
①	礫混じり砂	0.50	0.50	-	褐灰			全体に砂は細砂を主体とする。 全体にφ40mm以下の砕石と草根を混入する。
②	有機質シルト	1.50	1.00	5	黒灰～暗褐		中位の	全体に未分解の有機物を多く混入する。 0.50～0.90m間に細砂とφ2～10mmの亜角～亜円礫を混入する。
③	粘 土	3.00	1.50	6	淡黄褐		中位の	全体にほぼ均質である。 2.50～3.00m間に細砂を薄層状に挟在する。
④	シルト質砂	4.00	1.00	11	淡褐～褐	中位の		全体に砂は細砂を主体とする。 全体にシルトを薄層状に挟在する。
⑤	シルト	10.50	6.50	3～14	暗緑灰		軟らかい～硬い	全体にφ2mm以下の石英と軽石を混入する。 5.60～5.80m間と8.50～8.70m間に細砂をわずかに混入する。

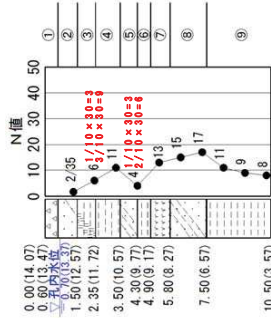


()は標高を示す。

④ B2-2 (標高H=14.07m 深度dep=10.50m

表 4.9 地盤構成

番号	主な土質	深度 (m)	層厚 (m)	N値 (回)	色調	相対密度	相対稠度	特徴
①	軽 石	0.60	0.60	-	淡灰			全体にφ2～40mmの軽石と風化軽石で構成される。 全体にφ2mm以下の石英を混入する。 0.00～0.10m間に草根を多く混入する。
②	シルト混じり砂	1.50	0.90	2	暗褐	非常に緩い		全体に砂は細砂を主体とする。 全体にシルト分とφ2mm以下の石英および草根を混入する。
③	有機質シルト	2.35	0.85	3	暗褐灰～黒褐		軟らかい	全体に未分解の有機物を多く混入する。 1.50～1.80m間に細砂を混入する。
④	粘 土	3.50	1.15	9～11	淡黄褐		硬い	全体にほぼ均質である。 3.00～3.50m間に細砂を混入する。
⑤	シルト質砂	4.30	0.80	3	淡黄褐	非常に緩い		全体に砂は細砂を主体とする。 全体にシルトを薄層状に挟在する。 全体にφ2mm以下の石英を混入する。
⑥	シルト	4.90	0.60	6	暗灰		中位の	4.80～4.90m間に細砂をわずかに混入する。
⑦	腐植土	5.80	0.90	13	黒褐		硬い	全体に腐植物を多く混入する。 5.50～5.80m間に有機質シルトを挟在する。
⑧	シルト質砂	7.50	1.70	15～17	暗灰	中位の		全体に砂は細砂を主体とする。 全体にシルトを薄層状に挟在する。
⑨	シルト	10.50	3.00	8～11	暗緑灰		硬い	全体にほぼ均質である。



()は標高を示す。

赤字は層境界の計算N値を示す。

※赤字は層境界の計算N値を示す。

4.2 孔内水位結果(初期水位)

本調査は、孔内水位(初期水位)を確認するまで、無水掘りを実施した。また、泥水掘りによる掘削作業を行い、泥水位を確認している。なお泥水位は、掘削作業終了後ケーシング内を泥水で満たし、翌日の作業前に計測した水位である。

今回確認された水位を下表に、孔内水位変動図を図4.3に示す。

表 4.10 孔内水位(1)

孔番	測定月日	ケーシング 掘削深度	ケーシング 深度	孔内水位 GL(m)	水位標高 H(m)	水位の位置 する土質	備考
B1-1	7月30日	-2.00	-	-1.90	13.59	有機質シルト	初期水位 (無水)
	7月31日	作業後	-2.00	0.00	15.49	ケーシング 頂部	泥水位
		作業前		-3.50	11.99	粘土	
	8月1日	作業後	-19.50	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-3.90	11.59	粘土と細砂との 層境界部	
	8月2日	作業後	-22.50	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-3.95	11.54	細砂	
	8月3日	作業後	-34.50	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-5.10	10.39	シルト質砂	
	8月4日	作業後	-44.09	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-6.75	8.74	シルト	
	8月5日	作業後	-52.19	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-7.30	8.19	細砂	
	8月7日	作業後	-58.50	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
		作業前		-11.70	3.79	シルト	
	8月8日	作業後	-64.18	0.00	15.49	ケーシング 頂部	
作業前		-8.10		7.39	礫混じり砂		
		-67.04	-8.20	7.29			

初期水位は、B1-1でGL-1.90mの有機質シルト内、B1-2でGL-2.65mの細砂内、B2-1でGL-1.00mの有機質シルト内、B2-2でGL-0.70mのシルト混じり砂内で認められた。

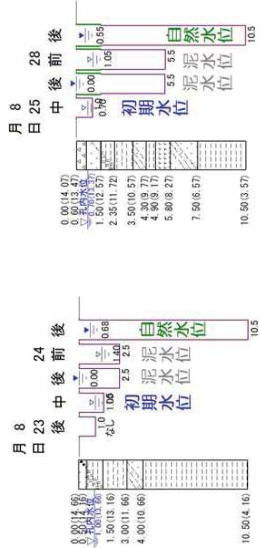
なお、被圧や湧水は認められていない。

表 4.11 孔内水位(2)

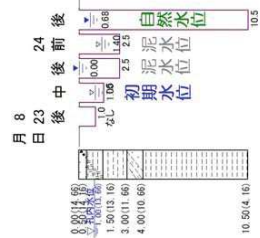
孔番	測定月日	ケーシング 掘削深度	ケーシング 深度	孔内水位 GL(m)	水位標高 H(m)	水位の位置 する土質	備考
B1-2	8月10日	作業中	-	-2.65	11.22	細砂	泥水位
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月17日	作業前	-1.00	-2.75	11.12	細砂	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月18日	作業前		-4.75	9.12	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月19日	作業前		-29.50	8.92	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月21日	作業前	-10.50	-4.95	8.92	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月22日	作業前		-45.50	8.77	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月23日	作業前		-51.50	8.72	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
	8月24日	作業前		-55.50	8.72	シルト	
		作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部	
8月25日	作業前	-15.05	-5.90	7.97	シルト		
	作業後		0.00	13.87	ケーシング 頂部		
8月28日	作業前		-64.21	8.02	シルト		
	作業後		-5.85	7.97			
			-67.04	-5.90			
			-1.00	-			
B2-1	8月23日	作業中		-1.00	13.66	有機質シルト	試験
		作業後		0.00	14.66	ケーシング 頂部	初期水位 (無水)
	8月24日	作業前	-	-1.40	13.26	有機質シルト	泥水位
		作業後		-0.68	13.98		自然水位
B2-2	8月25日	作業中	-	-0.70	13.37	シルト 混じり砂	初期水位 (無水)
		作業後		0.00	14.07	ケーシング 頂部	泥水位
	8月28日	作業前	-1.50	-1.05	13.02	シルト 混じり砂	泥水位
		作業後		-0.55	13.52	軽石	自然水位

※自然水位は観測孔設置後の水位を示す。

B2-2



B2-1



※ 自然水位は観測孔設置後の水位を示す。

B1-2



B1-1

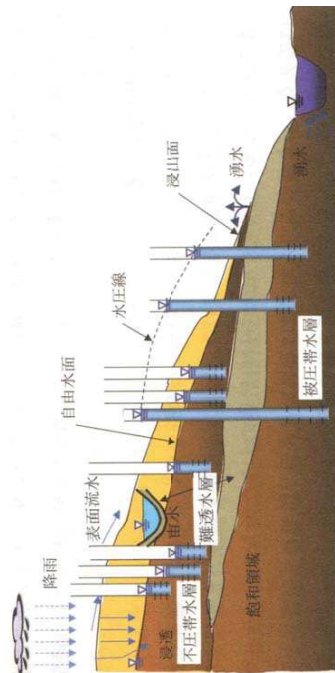
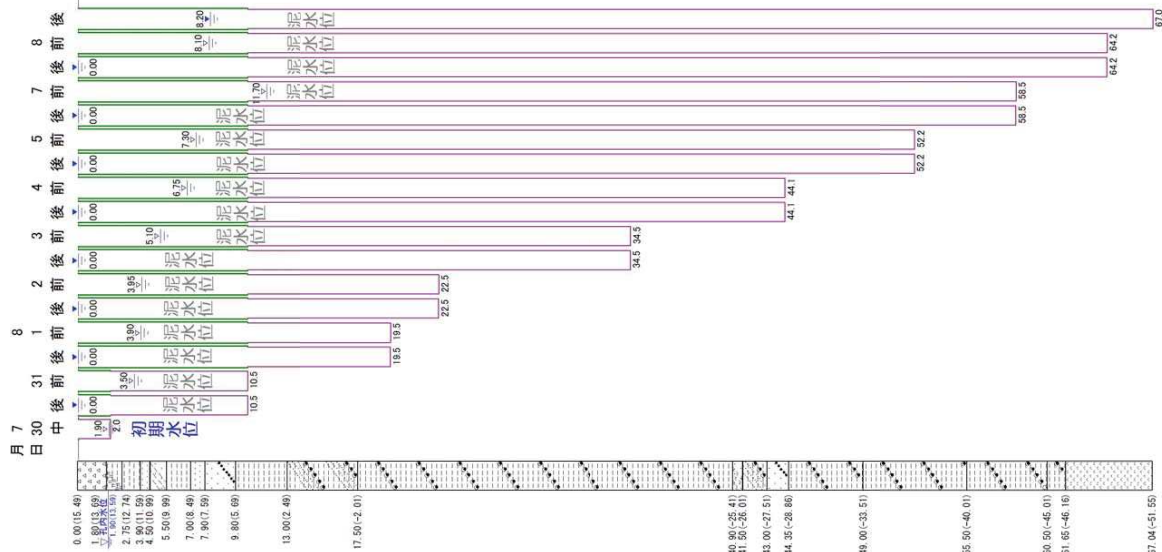


図4.3 地下水のある地層のモデル図

図4.2 孔内水位変動図

4.3 観測孔構造図

観測孔は、B2-1とB2-2の計2箇所に設置した。下図に観測孔の構造図を示す。

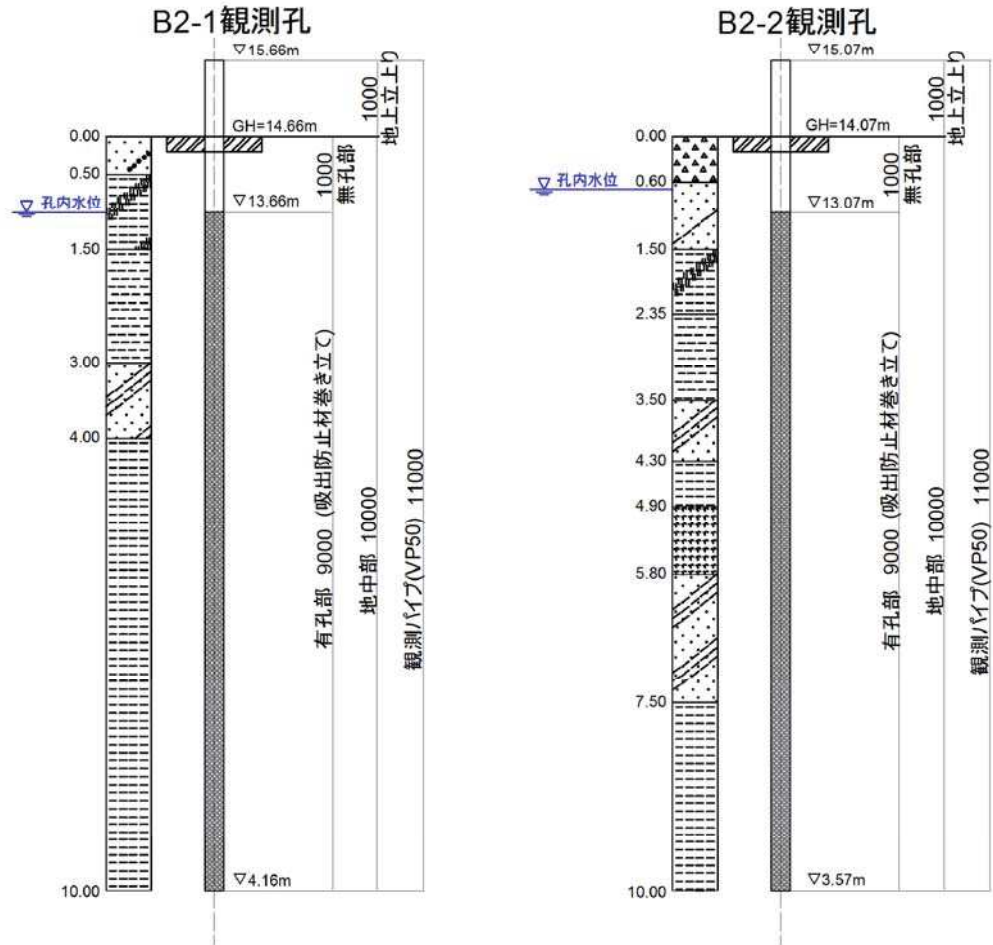


図 4.4 観測孔構造図

5.地盤構成と工学的特性

調査地盤は、盛土(砂質土)[Bs]・沖積粘性土層(Ac)・沖積砂質土層(As)・洪積粘性土層(Dc1～3)・3層・洪積火山灰質砂質土層(Dvs)・洪積砂質土層(Ds)・基盤岩(BR)の計9層で構成される。また洪積第1粘性土層(Dc1)は、砂質土層(Dc1-s)を挟在する。

調査地の地盤構成を下表に示す。

表5.1 調査地の地盤構成

地質時代	層区分	記号	主な土質・地質	層厚(m)	N値(回)
第四紀	盛土(砂質土)	Bs	軽石・砕石 礫混じり砂 シルト混じり砂	0.50～1.80	2～4
	沖積粘性土層	Ac	有機質シルト・粘土 砂混じりシルト	2.00～2.50	3～16
	沖積砂質土層	As	細砂・シルト質砂 礫混じり砂	0.80～1.80	3～16
	第1粘性土層	Dc1	シルト・腐植土 自粘混じり砂質シルト 自粘混じりシルト	32.60～35.80	3～60<
	挟在砂質土層	Dc1-s	細砂・礫混じり砂 軽石質砂・シルト質砂	0.55～2.80	15～60<
	火山灰質土層	Dvs	火山灰質砂	0.60～0.65	51～60<
	第2粘性土層	Dc2	自粘混じり砂質シルト	1.50～2.30	26～27
	砂質土層	Ds	礫混じり砂・軽石質砂	0.95～1.35	52～60<
	第3粘性土層	Dc3	自粘混じり固結シルト 自粘混じりシルト 自粘混じり砂質シルト	17.30～17.35	22～60<
新第三紀	基盤岩	BR	凝灰岩	5.14～5.39	60< (69～300)

※赤字は層境界の計算N値を示す。
※()は換算N値を示す。

調査地は、地表面にN値=2～4を示す砂質土(Bs)が層厚0.50～1.80mで盛土されており、以深にN値=3～16を示す沖積粘性土層(Ac)が層厚2.00～2.50m、N値=3～16を示す沖積砂質土層(As)が層厚0.80～1.80mで概ね水平に堆積する。

下位は、N値=3～60<を示す洪積第1粘性土層(Dc1)が層厚32.60～35.80m、N値=51～60<を示す洪積火山灰質砂質土層(Dvs)が層厚0.60～0.65m、N値=26～27を示す洪積第2粘性土層(Dc2)が層厚1.50～2.30m、N値=52～60<を示す洪積第3粘性土層(Dc3)が層厚0.95～1.35m、N値=22～60<を示す洪積第1粘性土層(Dc1)は、N値=15～60<を示す砂質土層(Dc1-s)を層厚1.30mで挟在し、分布範囲は不明瞭である。

最下位は、N値≥60を示す基盤岩(BR)が層厚5.14～5.39mで概ね水平に堆積する。

孔内水位は、B1-1とB2-1でGL-1.00～1.90mの沖積粘性土層(Ac)内、B1-2でGL-2.65mの沖積砂質土層(As)内、B2-2でGL-0.70mの盛土(砂質土)[Bs]で測定された。なお、被圧や湧水は認められていない。

地盤構成を明らかにするために作成した推定地層断面図を図5.1～図5.2に示す。